

令和5年度 武蔵野市立第六中学校 学校評価報告書

【評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である】

校長名 鈴木 斉

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	確かな学力の育成 基礎基本の定着	「先生が説明するだけでなく、生徒が発表する機会が授業の中にある。」という設問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が、88.4%となったことから、授業者が創意工夫を行い生徒が主体的に活動する工夫が授業にあることがわかる。そして、80.1%の生徒が「学力が向上している」と回答していることから授業者の授業改善の取り組みに加えて次の実践が効果を上げていると考えられる。 ・数学の少人数習熟度別指導、英語の少人数・習熟度学習 ・学習指導員による学習支援教室の実施、 ・学習者用コンピュータ等のICT機器の活用	A	・学習者用コンピュータを適宜活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みが各教科で実践されてきている。今後とも学習状況に応じた個別学習を視野に入れつつ、電子黒板等のICT機器を有効活用しながら、興味関心をさらに高め、基礎基本の定着の工夫を図っていく。 ・毎時間「本時の目標」を明確に示すことを徹底させることによって、生徒に学習の見通しをもたせ、「わかる喜び」を味わわせるような授業展開を今後も行っていく。 ・今後も土曜日を中心に実施している学習指導員による学習支援教室を有効に活用することで、個別指導の一層の充実を図り、習熟の程度の低い生徒への学習支援と発展的な学習内容の指導の充実を図っていく。	・アクティブラーニングに力を入れていることが多々伺うことができる。一方通行の教育ではなく双方向の教育を進めてもらいたい。 ・人前で話す機会が多くなっていることは大変良い。 ・習熟の程度が低い生徒は数・英にかかわらず学習全てに苦手意識があり学習環境等にも問題を抱えていることもある。少人数習熟度別指導の役割はとても大切。 ・学力が向上していると感じている生徒が多数いることは、先生方の不断の努力の成果だと思います。学校公開の時、一方的に知識を与えるのではなく、先生と生徒が創り上げていることが感じられました。今後もわかることの喜び、楽しさを実感できる指導を期待しています。
	言語活動の充実を通じた思考力・判断力・表現力の育成	言語活動の充実を図るために「ポスターセッション」を全学年で実施している。すべての生徒が意欲的に取り組み、発達段階に応じた思考力・判断力・表現力を伸ばしている。特に学習者用コンピュータの活用により多種多様な発表者の工夫が見られ、さらなる進化が期待できる。また朝読書の定着により生徒一人ひとりに読書習慣が身に付いてきている。このことから昼休みや放課後の図書室の利用に加え、朝から落ち着いて学校生活を送ることができる環境が作られている。	A	・六中の特色ある教育活動のひとつでもある「ポスターセッション」については、学習者用コンピュータなどのICT機器の有効活用により、個人発表等の言語活動の進化が目覚ましい。今後も学校行事や学年行事とタイアップしたテーマ設定を行い、コミュニケーション能力を育みながら、より深い学びを追求していく。 ・図書委員会主催のビブリオバトル等を通して、言語活動をさらに充実させるために、今後も継続して取り組んでいく。 ・年間を通しての朝読書の実施や各階に配置した新聞閲覧台により新聞を読む生徒が増えている現状を踏まえ、図書室以外でも本や活字に触れることができる環境づくりと、読書活動が充実する環境整備をしていく。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの意見を「人前で」言う、伝える能力は大人になっても重要なので「ポスターセッション」などのプレゼン機会があるのは非常に良いという評価を多数いただいている。ICT機器の活用もより良い相乗効果になっているので、今後も六中の特色ある教育活動のひとつとして、全学年においてそれぞれのテーマについてICT機器を活用しながら取り組んでいく。 ・学習支援教室は、新入生はじめ在校生が基礎基本につまずくことのないようにするフォローアップ体制のため、今後も学力向上を鑑み、年30回実施する。 ・言語活動のさらなる充実のため、ビブリオバトル等の取組や朝読書など、読書への興味関心を深める活動を推進していく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導・進路指導・特別活動	基本的な生活習慣の確立 人権尊重の精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・85.1%の生徒が「あいさつをしたり、時間を守ったりすることができる。」、93.7%の生徒が「公共物を大切にしている。」と回答していることから概ね基本的な生活習慣が身につけていると考えられる。 ・SNS等の利用については学習者用コンピュータも含めて家族で話し合い、家庭におけるルール作りをし、それを守るようにしている家庭が増えている。 ・都SCや市派遣相談員との連携が深まることで、「スクールカウンセラーの活用」により教員と生徒の信頼関係が強くなってきている。まだ不十分な面も見られるので、関係諸機関と連携して今後も教育相談活動の一層の充実を図っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよいあいさつから学校生活がスタートできるように、生徒会や生活美化委員会等の取り組みにとどまることなく、教職員も含め学校全体が普段からあいさつできる雰囲気や環境づくりを整えていく。 ・特別支援教育コーディネーター、都SC、市派遣相談員、SSWを中心とした教育相談体制を今後も充実させていく。特に、学年を問わず学校全体にアンテナを張るように教員の意識を高めていき、生徒の情報交換がスムーズかつ確実に今後も執り行われるようにする。また、保護者に対しては教育相談室等の活用を通して些細なことでも安心して相談できる環境づくりを図っていく。 ・いじめに対しては毅然とした姿勢で、引き続き早期発見、早期対応を心掛け、いじめ対策委員会を中心に組織的に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや時間を守るは生活の基本ですので、「あいさつ」からスタートする一日はとても良い。 ・基本的な生活習慣については、目にも見え評価もしやすく妥当であると思われます。SNS等については、「家庭におけるルール作り」だけでは中学生として問題のない使い方ができているか評価が難しいと思います。生徒同士や時には学校も介入した取り組みが必要。 ・2学年の職場体験はとても良い試みだと思うが、地域の職場だけでなく保護者の仕事も講義できると良い。 ・生徒、保護者、教職員がお互いに信頼しあっているように感じられます。信頼し尊重しあえて、命の大切さ、他者への配慮を考えることができるので六中の良い雰囲気を守り続けてください。 ・進路指導を進学指導だけではなく、どんな大人になりたいかを考えさせる指導を。 ・避難所開設のしつみを体験し、地域の人と一緒に防災や避難所を「考える」機会があると良い。
	進路指導の充実	<p>「学校では、将来の生き方を考えたりする時間がある。」と72.8%の生徒が進路指導に肯定的な回答をしている。これは「進路指導＝進学指導」ではないことを明確に伝えてきた成果であると思われる。今後も自己肯定感を高める心の育成とともに多種多様な生き方を認め考える指導を推進していく。そして自己実現に向けて行動する態度や能力を育成していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画に基づき、体験活動等を通してキャリア教育を推進していく。特に、望ましい職業観・勤労観の形成を図るために、自己理解・他者理解により、多種多様な他者と協働してよりよい未来の創造ができるような生き方指導を行っていく。また、学年集会や保護者会等を通じて「進路指導＝進学指導」ではないことを発信していく。 ・「生き方指導」の一環として、学校2020レガシーのオリンピックやパラリンピンの体験授業や講演を活用していく。 	
	防災教育の充実	<p>今年度も地域と防災課、消防署等と連携して総合防災訓練を実施することができた。非常時に地域の防災の要となるのが中学生であることを学ぶためにも継続して他機関と連携して実施していきたい。そして、できれば保護者とともに炊き出し等を体験する避難所訓練を実施したい。また、毎月実施している避難訓練も場面設定を変えて実施していることから、防災に対する意識も高まっている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域や保護者等とともに総合防災訓練が行われるように、様々な意見を伺いながら内容を検討していく。そして、地域や各方面の諸機関との連携をさらに深めていく。 ・避難訓練もマンネリ化しないように、他校の取り組み等を参考にしながら新しい発想を取り入れていく。 ・将来、地域の中で貢献できる人材となる意識をもたせるために、地域の消防団の一員として活躍している六中卒業生の話をお聴きするなど地域の消防団の有効活用も図っていく。 	
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒から率先してあいさつができる雰囲気や環境づくりをこれまで以上に推進していく。 ・災害時、中学生は大きな力になるので定期的な訓練は重要であり、炊き出し等避難所開設に向けて消防団や日赤等と連携した取り組みを推進していく。 ・「いじめなどのない学級づくり」に取り組むためにも学校評価アンケート等を吟味することにより学校全体で適切な対応に取り組んでいく。 ・地域や保護者とともに行うため、総合防災訓練を土曜日の学校公開に計画する。 ・武蔵野赤十字病院と連携して、六中ならではの「生き方指導」を今後も継続していく。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	地域から信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、陸上競技大会や合唱コンクール、学習発表会を含めて土曜日の学校公開を6回実施し、保護者や地域の方からのアンケートにより授業改善等の参考にした。 また、毎月6日に六中公開という学校公開を行い、開かれた学校づくりに取り組んでいる。ただ平日ということもあり来校者が少ないことが課題である。 学年通信、学校だよりや学校ホームページ等学校からタイムリーな情報を発信することで、保護者の方からは肯定的な評価をいただいている。ただ、ホームページの更新ができていない面もあり、課題でもある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革が叫ばれる中、地域や保護者からの要望として、「土曜日の学校公開」は認めない。今後も学期に1回以上の学校公開を行い、学習者用コンピュータ等のICT機器の有効活用や生徒主体の学習活動を積極的に取り入れ内容の濃い授業を公開していくことで、地域に開かれた教育活動を展開していく。 これからも地域の信頼にこたえられるよう、学校行事や公開授業の案内を送付するとともに地域に根ざした学校づくりを心掛けていく。 6月の陸上競技会での種目変更、10月の合唱コンクールでの有志合唱、3月の学習発表会での各学年の代表者による「ポスターセッション」など、多くの地域や保護者の方に参観意欲が増すような工夫を今後も取り入れていく。 ホームページの細部まで点検し、更新すべき記事は早期に更新をこころがける。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルとアナログの過渡期ではありますが、デジタル配信の強化を。 六中公開に関しては、もっとPTAに声をかけて日頃の子供達の様子に関心を持ってほしい。 小中連携は様々な形で実現できる。運動会や境南フェスタなど。地域としても積極的に参加してもらうように広報していきたい。 開かれた学校づくり協議会には保護者だけではなく地域の目で意見を発する人を増やしていきたい。 地域の担い手として、中学生に活躍が求められるため、学校外の活動にも期待したい。
	小中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 7月と11月に小中連携として小中合同研修会を実施した。また、3月には来年度進学してくる6年生のために六中の学校生活のビデオや冊子を生徒会で作成する。今後、小中連携を踏まえ地域との共存共栄に取り組むためにも学区の小学校の運動会等に中学生がボランティアとしてお手伝いに参加することも検討したい。 開かれた学校づくり協議会においては、貴重なご意見をいただきながら充実した時間を共有している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学区の小中の交流をより密にして地域の中学校へ関心を持たせるためにも、管理職や教務主任が中心となって、さらに連携できる内容を模索していくことが必要と考える。そのためにも、年2回の小中合同研修会を有効活用して教職員間の意思疎通や情報共有に努めていく。 今後も境南小学校と第二小学校との連携を深め、六中学区として、義務教育を通して児童生徒の健全育成のために学校行事や開かれた学校づくり協議会をどのように連携させていくか研究していく。 今後の開かれた学校づくり協議会の在り方について検討を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり協議会には保護者だけではなく地域の目で意見を発する人を増やしていきたい。 地域の担い手として、中学生に活躍が求められるため、学校外の活動にも期待したい。
	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員として青少協主催のジャンボリーにサブリーダーとして生徒が参加している。また、青少協の企画やコミセンや地域行事に部活動等で参加が続いている。また今年度10周年となった武蔵境駅前の花植え活動にボランティア活動として20名以上の生徒が参加するようになった。地域の活動に地域の方と一緒に和気あいあいと活動することができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で一時的に中止されていた青少協主催のジャンボリーにサブリーダーとして参加するか否かは生徒に任されているが、再開したことから、ジャンボリーの日程が決まり次第、出来るだけ早い段階で日程を生徒に伝え、参加を促していく。 六中の年間行事予定が決まり次第、今年度中に青少協やコミセン等地域に伝えることで、青少協やコミセンが行う地域行事の企画運営に生徒がどのように関わられるかについて、それぞれと相談するようしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ジャンボリーの参加や駅前の花植え活動等は生徒にとっても楽しく、将来の社会活動にも役立つので、青少協と生徒との関わりを継続して検討していきたい。
	地域とともに歩む学校	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も道徳授業地区公開講座や進路学習・総合的な学習の時間・職場体験等、地域の人材や社会福祉協議会等の公共機関の活用してきた。 学校便りをコミセンに持っていくなど、学校の様子が地域の方に伝わるよう工夫している。 地域の人材等をもっと有効に活用していくことが今後の課題でもある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の教育力を活用し、地域が学校の教育活動に関わりながら、忌憚のない意見をいただき、地域と共に地域の子供を育てるという視点を大切にする。 今後も青少協やコミセン等との連携を密にするために、足しげく青少協やコミセン等を訪れ、より良い人間関係づくりをしていく。 地域コーディネーター等と相談して、六中独自の地域の人材バンクづくりを模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革が叫ばれる中においても、土曜授業や学校公開の実施は働く保護者にとっても地域のものにとっても有難い。また、地域貢献や地域とのつながりも防災の観点からもとても大切。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃の子供たちの様子に関心を持っていただくためにも、PTAや地域の方々と連携して六中公開をもっとPRしていく。 小中の交流の一環として、生徒による六中学区の中の二つの小学校の運動会などでのお手伝いを発信することにより地域に根差した教育を展開していく。 地域の中の学校として、ジャンボリーや武蔵境駅前の花植え活動、地域清掃など地域の取り組みに積極的な参加を推進していく。 開かれた学校づくり協議会等でいただいた意見をもとに地域コーディネーターと連携して地域の教育力をさらに活用していく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	教職員の協力体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の回答で「先生方同士、協力して指導にあたっていると思う。」が 89.3%、「先生は、熱心に勉強を教えたり、相談に乗ってくれていると思う。」が 85.7%と教職員の協力体制や教育活動について、概ね肯定的な結果を得ることができた。今後も「チーム六中」として生徒がより安心安全に生活できる環境作りに努めていく。そして一人でも多くの生徒が充実した学校生活を送れるように情報共有しながら連携を図っていく。 保護者や地域とも情報共有して連携を図ることで、地域の中の学校づくりに取り組んでいく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員の協力体制を評価していただいていることはとても良いことであるが、教職員の連携が学校運営の基本であることを再認識して、ひとりで抱え込むことなく「チーム六中」として取り組む体制を充実させていく。特に生活指導等に関しては常にその先を考えながら危機意識を持って対応していく。今後も和を大切にしたい学校運営を心がけていく。 また、教職員の役割分担を明確化するとともに、組織的な課題解決に取り組むことで、教職員のチーム力のさらなる向上を図っていく。 学校便りやPTA便り等を利用し、教員以外の職員の紹介も含め、六中の教職員全体像が見えるように努力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 他職種に比しても激務である先生方がストレスもある中、教育成果をあげられる要素のひとつが、上司、同僚からの支援であるとされています。生徒からも協力していると評価されることは、極めて優良な先生方であると思います。 「チーム六中」として教職員の皆様が同じ方向を向き、一丸になる姿は生徒にとってもとても素晴らしい姿だと思います。 少人数の学校ということもあり、教員と生徒の距離も近いことが魅力となる学校づくりを引き続きおこなっていただければ幸いです。 人材バンクを利用することで教職員の満足度が高まることを期待しています。 「学校だより」を楽しみにしています。掲載しきれない写真、記事が載っているホームページも楽しみです。 学校ホームページは、行事のたびに更新されており、親としては子どもの様子がわかるのでありがたい。
	学校情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページやむさしの学校緊急メールによる情報提供は、随時必要に応じて行うことができた。また、夏休み以降、校支援のメールによる欠席連絡を導入することで朝の電話対応が少なくなり生徒指導がしやすくなった。 各種たより(学校・学年・保健等)も充実しており、定期的な情報提供ができた。特に学校便りは地域に配布することで定期的な情報提供や PR に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、各種のお便りや学校ホームページによる学校情報の発信に努め、六中の教育活動の見える化を推進して「開かれた学校づくり」に励んでいく。 特に、来年度からは「むさしの学校緊急メール」に代わって、「校支援の連絡帳」を使用することになるため、100%の登録を保護者をお願いするとともに、このアプリの利用法を検討することで、保護者のみの回答には紙面から SNS へと移行していく。 学校ホームページに限らず、各種お便りも含めて、内容や個人情報をしっかりと吟味しながら、学校情報の充実に努めていく。 	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、教職員がお互いに信頼しあえているように感じているというご意見は、学校として大変有難いことなので、今まで以上に教職員の連携体制を確立していき、様々な問題に対して臨機応変に対応できる「チーム六中」を構築していく。 学校情報に関しては、ICT 機器に慣れていない先生方や PTA との連携により協力体制を模索していく。 学校ホームページ等を駆使して今後も情報発信を充実させていく。 					